

胎内市立小中学校施設の耐震化状況について

学校施設は、児童生徒等にとって一日の大半を過ごす学習・生活の場であるとともに、非常災害時には地域住民の避難場所となるなど地域の防災拠点としても重要な役割を担っており、その安全性の確保は極めて重要です。

市では木造建物を除く市立小中学校施設で、新耐震基準施行（昭和56年）以前に建築されたものについて、平成18年度に耐震化優先度調査、平成20年度からは第2次診断を実施しました。その結果により、平成21年度から耐震化工事を進め、平成24年度末に全て完了しています。

新耐震基準により建築された市立小中学校施設

学校名	建物区分	構造	階数	建築年月
1 きのと小学校	管理・教室棟	R	3	平成6年2月
	屋内運動場	S	1	平成5年3月
3 築地小学校	管理・教室棟	R	3	平成14年1月
	屋内運動場	S	1	平成14年1月
5 胎内小学校	管理・普通・特別教室棟	R	3	平成22年2月
	屋内運動場	S	1	平成22年2月
7 乙中学校	管理・教室棟	R	3	昭和58年2月
	屋内運動場	S	1	昭和64年1月

市立小中学校施設の耐震化状況

平成28年4月1日現在

学校名	棟番号	建物区分	構造	階数	建築年月	面積 (㎡)	耐震 基準	優先度 調査 ランク	第2次 診断 Is値	耐震化実施年度					
										20	21	22	23	24	
1 中条小学校	1-1	管理・教室棟 (南校舎)	R	3	昭和36年3月	1,494	旧	①	0.38	第2次診断	-	設計	工事 (完了)	-	
	1-2	理科室・教室棟 (南校舎)	R	3	昭和37年3月	909	旧	①	0.38	第2次診断	-	設計	工事 (完了)	-	
	3	7	屋内運動場 (西運)	S	1	昭和8年10月	694	旧	①	0.10	第2次診断	設計・工事 (完了)		-	-
	4	15	屋内運動場 (東運)	S	1	昭和41年3月	737	旧	⑤	0.06	第2次診断	設計・工事 (完了)		-	-
	5	16	図書室	R	1	昭和47年10月	227	旧	⑤	0.68	第2次診断	-	設計	工事 (完了)	-
	6	18	教室・特別教室 棟(北校舎)	R	3	昭和53年3月	660	旧	③	0.60	第2次診断	-	設計	工事 (完了)	-
	7	20	教室・特別教室 棟(北校舎)	R	3	昭和54年3月	1,838	旧	③	0.60	第2次診断	-	設計	工事 (完了)	-
	8	21	昇降口	S	1	昭和54年3月	261	旧	③	0.06	第2次診断	設計・工事 (完了)		-	-
	9	23	保健室棟	S	1	昭和54年11月	261	旧	③	0.22	第2次診断	設計・工事 (完了)		-	-
	10	25-1	教室・特別教室 棟	R	3	昭和58年12月	532	新	-	-	-	-	-	-	-
11 黒川小学校	1	管理・教室棟	R	3	昭和55年3月	4,470	旧	⑤	0.46	-	第2次診断	設計	工事 (完了)	-	
	12	3・3-2	屋内運動場	R	2	昭和55年6月	1,015	旧	⑤	0.57	-	第2次診断	設計	工事 (完了)	-

学校名	棟番号	建物区分	構造	階数	建築年月	面積 (㎡)	耐震 基準	優先度 調査 ランク	第2次 診断 Is値	耐震化実施年度					
										20	21	22	23	24	
13	中条中学校	2-1	特別教室棟	R	3	昭和36年3月	1,054	旧	①	0.27	第2次診断	設計・工事 (完了)	-	-	
14		2-2	特別教室棟	R	3	昭和40年3月	827	旧	①	0.27	第2次診断	設計・工事 (完了)	-	-	
15		9-1	屋内運動場	S	1	昭和28年3月	793	旧	③	0.05	第2次診断	設計・工事 (完了)	-	-	
16		14-1	管理・教室棟	R	4	昭和47年3月	1,851	旧	③	0.32	第2次診断	設計	-	工事 (完了)	-
17		14-2	管理・教室棟	R	4	昭和47年5月	1,269	旧	④	0.32	第2次診断	設計	-	工事 (完了)	-
18		20-1	特別教室棟	R	4	昭和58年12月	394	新	-	-	-	-	-	-	-
19		20-2	昇降口	R	1	昭和58年12月	156	新	-	-	-	-	-	-	-
20	築地中学校	1	教室棟	R	3	昭和45年2月	1,233	旧	①	0.38	第2次診断	設計	工事 (完了)	-	-
21		18	管理・特別教室 棟	R	3	昭和60年7月	2,101	新	-	-	-	-	-	-	-
22		19	食堂	R	1	昭和60年7月	383	新	-	-	-	-	-	-	-
23		22-1	屋内運動場	S	1	平成9年1月	1,220	新	-	-	-	-	-	-	-
24		22-2	屋内運動場 (クラブハウス)	S	1	平成9年1月	220	新	-	-	-	-	-	-	-
25	黒川中学校	1	管理・教室棟	R	3	昭和54年3月	4,502	旧	⑤	0.35	-	第2次診断	設計	工事 (完了)	
26		3	屋内運動場	R	1	昭和54年3月	1,331	旧	⑤	0.79	-	第2次診断	補強の必要なし		
27		4	武道場	S	1	昭和54年3月	390	旧	-	0.29	-	第2次診断	設計	工事 (完了)	

【用語の解説】

- 「構造」欄に「R」とあるのは鉄筋コンクリート造を、「S」とあるのは鉄骨造をいいます。
- 「耐震基準」欄に「旧」とあるのは新耐震基準施行（昭和56年）以前に建築されたものを、「新」とあるのは新耐震基準施行後に建築されたものをいいます。
- 「優先度調査」は、正確には「耐震化優先度調査」といい、学校の設置者が、どの学校施設から耐震診断を実施すべきか、その優先度を検討することを主な目的として実施するもので、優先度の高いものから順に、①から⑤までのランク付けをすることとなっています。
- 「第2次診断」は、個別の建物の耐震性能を詳細に評価する診断方法です。診断の結果は「Is値」等の数値で示されます。
- 「Is値」（構造耐震指標）は、建物の耐震性能を数値化したもので、その値が大きいほど耐震性能が高いことを表します。国土交通省では、安全性の目安として「Is値」を0.6以上としています。なお、文部科学省では、学校施設については、児童生徒等の安全確保や応急避難場所としての機能・役割を担っているため、安全性の目安を「Is値」0.7以上としています。

「Is値」の目安（平成18年1月25日 国土交通省告示第184号）

Is値	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性
0.3未満	地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。
0.3以上～0.6未満	地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。
0.6以上	地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。